## 大分県日田市

# 未利用資源活用の自然循環サイクルを実現 電力の地産地消モデルを構築

木質バイオマス発電設備の設計や、バイオマスチップ(バイオマス発電の燃料)の 製造を手掛ける。近隣エリアから間伐材等を集め、バイオマスチップを製造し、併設 する木質バイオマス発電所で発電。電力会社を通して地域への電力供給を行う。間伐 材等の有効活用と再植林により、CO2の吸収と排出のバランスをゼロに保つ「カーボ ンニュートラル」を実現している。

●所在地	大分県日田市諸留町2813-22
●電話/FAX	0973-26-0750/0973-26-0760
•URL	http://www.n-forest.jp/
●代表者	代表取締役 森山 和浩

- 設立	2004年
●資本金	1,000万円
●従業員数	36人



#### 地域未利用資源を活用した新たな自然循環サイクルを実現

地域の林業者等と共同で協議会を設立。協議会を通じて間伐材等を購入し、木質チップ化、発電を行い地域に電力供給する仕組を構築。地域の未利用資源である間伐材等に新たな商品価値を付加し、植林・育成~未利用材の有効活用~再植林・育成、という自然循環サイクルを実現している。持続可能な自然循環サイクルにより、林業者の所得向上と森林再生を図る。併せて、CO2の吸収と排出のバランスをゼロに保つ「カーボンニュートラル」を実現している。また、災害時に発生した大量の流木等を積極的に受入れる等地域の復興支援に貢献している。



木質バイオマスの自然循環

#### 地域内における原料安定調達の基盤を確立

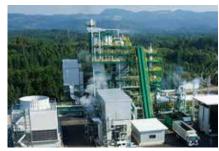
多くのバイオマス発電所は、近隣から十分に集材できず、輸入した海外木材やPKS (椰子殻)を混焼するため、輸送コストとCO2発生が課題となっている。しかし同社は、協議会を通じて間伐材等を効率的かつ安定的に確保する体制を構築。発電所から半径50km以内の山林から間伐材等を安定的に集材し、原料を地域材で賄うことで輸送コストとCO2発生を抑制している。



地域の間伐材等 (未利用材)

### 電力の地産地消モデルを構築

木材需要の低迷、輸入材との競合、生産高齢化に苦しむ地域の林業集積地において、地域の未利用資源を活用した木質バイオマス発電という電力の地産地消モデルを導入。同社単独ではなく地域の林業者や住民と連携した仕組を構築し、地域における新たな木材需要の創出、生産者の所得向上・林業活性化、森林再生、雇用創出に貢献している。ITで集中管理することで発電設備は24時間稼働し、高い事業効率を実現している。



24時間稼働の木質バイオマス発電所